

授業概要

保育における環境の意味について学ぶ。環境を通した保育、遊びを通した保育の意味について理解する。教材研究として物的環境、人的環境、社会的環境について考え、環境設定の意味を指導案指導に結び付けて学ぶことで、ねらいと内容についても理解し、環境を題材として指導案指導の作成に挑む。また、その過程を模擬保育にて実践し、保育者の思い、子どもの気持ちについてより具体的に指導する。

授業計画

第1回	領域の意味、および総合性という言葉について考える
第2回	指導計画におけるねらいと内容の意味
第3回	環境の持つ意味についての理解
第4回	教材研究としてのモノと関わる遊びについて
第5回	園全体の環境 保育課程、長期指導計画としての環境
第6回	教材研究としての自然との関わり
第7回	子どもが自然から得ること
第8回	環境を題材として指導案指導について
第9回	身近な物的環境
第10回	環境構成に基づく指導案指導について
第11回	食物や生き物に触れることの意味
第12回	模擬保育1 指導計画の作成
第13回	模擬保育2 子どもの前で保育することの意味
第14回	遊びを通した保育の意味
第15回	まとめ 環境と日々の生活の結びつきについて
第16回	筆記試験

到達目標

領域「環境」のねらいと内容を理解し、環境が子どもたちに働きかける意味をとらえる。また、「環境」と通した保育者の援助の内容を理解する。

履修上の注意

定時に出席を取る。遅刻は30分以内までの者とする。電車の遅延などは、大きな事故などの例外を除いて原則認めない。

予習復習

予習としては、幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。復習としては、保育の総合性を念頭に各領域との総合的に関連づけること。

評価方法

筆記試験の結果70%、授業態度30%とする。欠席が3分の1を超える学生は受験資格がないので留意すること。

テキスト

「コンパス保育内容 環境」高橋貴志、目良秋子編著 建帛社